

あいち農産物生産流通レポート

2023年4月号

	ページ
◎ 地域トピックス	
・ 南知多町での有機農産物の産地づくりに向けた取組について (知多農林水産事務所)	1
・ 田原市・JA愛知みなみ園芸農産物総合品評会(冬季)が開催 (東三河農林水産事務所)	2
◎ 東日本情報	
・ 東京ギフト・ショーに愛知県産農産物の加工品が出展されました (東京事務所)	3
◎ 西日本情報	
・ 2023年度愛知県産地交付金について (園芸農産課)	5
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	7
・ 名古屋・東京市場における青果物の4月の見通し	8
◎ 花き	
・ 切花・鉢花の4月の見通し(県内市場)	20

※今月「情報サロン」、「フラワーページ」はありません

内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

(052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

(03)-5492-5400

南知多町での有機農産物の産地づくりに向けた取組について

知多農林水産事務所

南知多町では人口減少と離農による遊休農地の増加が問題となる中、有機農業での就農を志して南知多町へ移住を希望する人が最近増えています。このため、南知多町ではみどりの食料システム戦略緊急対策交付金を活用し、2022年度に有機農業者の地域への定着を目的とする新たな取組を始めました。

1 主な取組内容

(1) 有機農業実施計画の策定

町長を座長として、有機農業者、慣行農業者、農協、食品の流通加工関係企業、学識経験者、県農業改良普及課で構成される検討会を開催し、南知多町での有機農業の産地化に向けた取組指針となる「有機農業実施計画」を策定しました。



検討会の様子

(2) 有機農業推進のための具体的な取組

ア 有機農業スクール設置計画の策定

有機農業者育成のための有機農業スクールの設置に向けて、モデルとするスクールの運営会社から新規就農者への教育やスクールを軸としたコミュニティ形成、産地の形成と持続発展等についてコンサルティングを受けました。

イ 有機農産物の販路拡大

南知多町、地元有機農業法人、有機農業産地づくりの推進に賛同する加工・流通関係の企業が連携協定を2022年5月6日に結びました。



連携協定の締結

ウ オーガニックビレッジ宣言

策定した「有機農業実施計画」をもとにオーガニックビレッジ^{※1}宣言を2023年3月27日に行いました。(※1 有機農業の生産から消費まで一貫し、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻き込んだ地域ぐるみの取組を進める市町村のこと。)

2 今後の取組

有機農業実施計画では、有機JASの認証に係る5年後の目標を設定し、これらの達成に向けた取組を実施しています。

これまでの取組により、有機JAS認証^{※2}を前提にした長期間の営農継続が可能な農地の確保等に課題があることが分かりました。

このため、今後、慣行農業と有機農業とを区分するゾーニングや遊休農地の再整備等の検討を行っていきます。(※2 播種または植付け前2年以上禁止された化学肥料や化学合成農薬を使用しないこと等が求められる。)

表 現状と目標（有機JAS認証）

	R 3 (現状値)	R 9 (目標)
農地	19 ha	21 ha
農作物出荷量	171.6 t	190.5 t
農業者数	4 名	9 名

田原市・J A愛知みなみ園芸農産物総合品評会（冬季）が開催

東三河農林水産事務所

田原市・J A愛知みなみ園芸農産物総合品評会（冬季）が、2023年2月17日・18日に田原市総合体育館で開催されました。

この品評会は「田原市における園芸農産物栽培技術の改善と品質の向上に資するとともに、生産者の栽培意欲を高揚し、田原市の園芸農産物の生産振興を図ること」を目的に開催されているものです。直近2年間はコロナ禍で中止となっており、今回3年ぶりの開催となりました。

品評会には、青果物の部に293点、花きの部に310点の合計603点と全国有数の産地の田原市らしく、非常に多くの農産物が出品されました。

今年は、夏の猛暑や8月下旬から9月にかけての多雨などの影響により、病害や生育障害等が発生するなど、作柄が心配される状況でしたが、その後の好天により生育が回復し、概ね良好な作柄となりました。

このような条件のなか、外観・品質・食味ともに優れたものが多く、生産者の日頃の努力と生産技術の高さを伺うことができました。

出品された農産物については、市場関係者、J A愛知経済連及び県関係機関で審査を行い、農林水産大臣賞にミニトマト1点、愛知県知事賞に輪菊等7点など、金賞74点、銀賞78点を選出し、表彰が行われました。

この品評会で、J A愛知みなみの農産物の素晴らしさを積極的にPRし、田原市の農産物への田原市の園芸農産物の生産振興につながるさらなる取組が期待されます。



審査の様子



表彰された農産物（青果物）



表彰された農産物（花き）

東京ギフト・ショーに愛知県産農産物の加工品が出展されました

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

2023年2月15日（水）～17日（金）に東京ビッグサイトで東京ギフト・ショー（主催：株式会社ビジネスガイド社）が開催され、全国各地から数多くの商品が出展される中で、愛知県産農産物を使った加工品も出展されました。

1 東京ギフト・ショーとは

東京ギフト・ショーは日本最大のパーソナルギフトと生活雑貨の国際見本市で、毎年春と秋の年2回開催されています。

今回の第95回東京インターナショナル・ギフト・ショー春2023は、3つのショーで構成されており、そのひとつが、地域のプレミアムフードが集まる食の見本市「第33回グルメ&ダイニングスタイルショー春2023」でした。「ホームミール新時代！より美味しく、本物・手づくり志向の食卓へ。」をテーマに多くの出展があり、日本商工会議所が主催した「feel NIPPON 春2023」のコーナーでは、各地の商工会議所が地域の商品やサービスを出展していました。

2 愛知県産農産物の加工品

多くの出展がある中で、愛知県産農産物を使った特色ある加工品も見られました。

（1）茶

豊田商工会議所のブースでは数店舗が出店しており、そのひとつで抹茶そばが展示されていました。

抹茶をふんだんに練りこんでいるのが特徴で、「普通の茶そばは、食べてもお茶っぽさが感じられない。しっかりと茶を感じられるそばを多くの人に食べてもらいたい」という、茶の生産、販売を手掛ける社長の強い思い入れにより実現した商品です。濃緑の見た目どおり、食べると濃厚な抹茶の味や香りが感じられるのが特徴です。

指定する抹茶の配合比率が高いため、そばになりづらく、あちこちの製麺所から製造を断られながら、ようやく島根県内で作ってくれるところを見つけました。3年前に完成したもののコロナ禍のため思うように売り込めず、満を持しての出展で「あとは売り込むのみ」と意気込みを見せていました。今後は、商品を広く知ってもらうためレシピコンテストなどを計画されています。



抹茶をふんだんに
練りこんだそば

(2) 米

江南商工会議所のブースでは、愛知県育成品種のもち米「やわ恋もち」を用いたカステラが展示されていました。

通常カステラは小麦粉を用いますが、三河地方の中山間部の契約農家で栽培された「やわ恋もち」から作ったもち粉と、米粉によるグルテンフリーのカステラで、ぱさつきがなく、もちっとした食感があります。甘味の原料には三河地方の本みりんを用いて優しい甘さとなっており、蜂蜜を使用しないため幼児でも食べられます。添加物や保存料を使わず、原料は愛知県産が主というのも特徴となっています。

評判は上々のようで、試食後にわざわざ「おいしかった」と言いに戻って来られた来場者もいました。会期の半分ほどが経過した時点で出展店舗担当者が交換した名刺は50枚以上とのことで、「これがどれだけ実を結ぶかが肝心」と気を引き締めてみえました。



「やわ恋もち」を使った
カステラ

(3) 名古屋コーチン

小牧商工会議所のブースでは、名古屋コーチンの肉や、卵を使った加工品などが展示されていました。

出展店舗担当者によると名古屋コーチンの知名度は高く、訪問者のほとんどが名古屋コーチンを知っている反面、食べたことのない方が多数おられるとのことでした。

ここでは新しく商品化されるプリンに人気が集まっており、発売時期や価格、保存日数について多くの訪問者が質問しており、中には輸出業者がおられました。

また、この店舗では以前からシフォンケーキなどを製造販売しており、「卵白を使うシフォンケーキと、卵黄を使うプリンは、卵を無駄なく使うことができ、相性がいい」と話していました。養鶏場が近くにあるため産みたての卵を使用し、添加物はいれない点にこだわっています。砂糖は少し入れている程度で、ふわっとした甘味、とろっとした風味が特徴で、3月中に発売予定とのことでした。



名古屋コーチンを用いた
プリン

こうした愛知県産の農産物を使った加工品が、より多くの人にPRでき、知られることは、愛知県農業の活性化の一助になると思われます。

2023 年度愛知県産地交付金について

園芸農産課

1 産地交付金の概要

産地交付金とは、食料自給率向上を目的に、水田における主食用米以外の作物栽培を推進するための水田活用の直接支払交付金に係る支援策のひとつであり、地域の作物振興の設計図となる「水田収益力強化ビジョン」に基づき、特色ある魅力的な産地づくりに向けた取組を支援します。水田収益力強化ビジョンは県と各地域農業再生協議会がそれぞれ作成しています。

2 水田活用の直接支払交付金の交付申請手続き等について

交付対象者は販売農家又は集落営農であり、交付申請者は生産年の6月30日までに交付申請書を地方農政局又は地域農業再生協議会へ提出します。

3 2023 年度愛知県産地交付金について

「2023 年度愛知県水田収益力強化ビジョン」では以下の9つの取組を独自に支援します。

(1) 大豆の生産安定

大豆の収量向上・安定化を目指すため、①土壌改良剤の散布、②排水対策（暗渠）の実施、③殺虫剤の散布（鱗翅目類）の3つの取組のうち1つ以上の取組に対し支援します。

(2) 飼料用米の作付推進

需要に応じた米生産を推進するため、直播栽培や土づくり（堆肥の施用、ケイ酸質資材の施用）等の8つの取組のうち1つ以上の取組を行った飼料用米の作付に対し支援します。

(3) 米粉用米の作付推進

ウクライナ情勢等に関連した小麦価格高騰の影響により、小麦代替として注目が集まっている米粉用米の作付を推進します。直播栽培や土づくり（堆肥の施用、ケイ酸質資材の施用）等の8つの取組のうち1つ以上の取組を行った米粉用米の作付に対し支援します。

(4) 飼料用米・米粉用米複数年契約

飼料用米・米粉用米の安定的な供給のための複数年契約（2021年産から2023年産の3年契約）の取組に対し支援します。

(5) 米粉用米複数年契約

米粉用米の安定的な供給のための複数年契約（2023年産から2025年産の3年契約）の取組に対し支援します。

(6) 加工用米複数年契約

加工用米の安定的な供給のための複数年契約（2022 年産から 2024 年産の 3 年契約）の取組に対し支援します。

(7) 稲WCSの作付推進

輸入飼料価格の高騰による国産飼料の需要の高まりを受け、稲WCSの作付を推進します。直播栽培や土づくり（堆肥の施用、ケイ酸質資材の施用）等の 5 つの取組のうち 1 つ以上の取組を行った稲WCSの作付に対し支援します。

(8) 飼料用とうもろこしの作付推進

輸入飼料価格の高騰による国産飼料の需要の高まりを受け、需要者との利用協定を行った飼料用とうもろこし（子実用とうもろこし、青刈りとうもろこし）の作付に対し支援します。

(9) 牧草の作付推進

輸入飼料価格の高騰による国産飼料の需要の高まりを受け、需要者との利用協定を行った牧草（ソルゴー、イタリアンライグラス、エンバク）の作付に対し支援します。

注. 各メニューは国からの計画認定前の内容ですのでご注意ください。2023 年度水田収益力強化ビジョンの詳細については、各地域農業再生協議会へお問い合わせ下さい。

愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ± 1 % 台以下
 わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

○ 名古屋中央卸売市場（品目：チンゲンサイ）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
2022年実績	1, 218	563 (46%)	300	272	静岡 (48%) 愛知 (46%) 茨城 (4%)
2023年見通し	1, 200	—	310	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
静岡、愛知、茨城を中心に入荷する。生育は順調で、昨年と同様に安定した入荷を見込む。産地での作付面積も前年並となっている。給食が始まる4月中旬頃から需要が高まる予想。 入荷量は前年並、価格は前年をやや上回る見込み。			愛知は生育順調で品質も良好であるが、夏場の暑さで傷みが出やすいため、適期収穫を心掛け、品質維持を徹底していただきたい。 コロナ禍による規制も緩和され、業務や給食向けの需要が回復してきたので、今後も栽培面積の維持と、安定出荷をお願いしたい。		

○ 東京都中央卸売市場（品目：さやえんどう）

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年主要産地 (上位3産地)	
		うち愛知産	愛知産		
2022年実績	1, 794	310 (17%)	1, 178	1, 213	鹿児島 (29%) 愛知 (17%) 長崎 (9%)
2023年見通し	1, 800	—	1, 150	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
冷え込みの影響で生育が遅れたうえ、九州産地での霜害により数量が少なく高値基調が続いたが、3月に入ると入荷量が増え高値の反動もあって下げ相場となった。 4月上旬までは数量が多いものの、その後は例年通り入荷量を徐々に減らしながら堅調な価格推移が見込まれる。 入荷量は前年並となり、価格は前年をわずかに下回る見込み。			ハウス栽培である愛知県に対しては、安定供給の期待が大きく、引き続き安定供給及び産地基盤の維持拡大をお願いしたい。 ガク枯れについて、他県産では返品扱いであり等級規格に含まれないことから、他県同様の扱いとなるよう、基準の見直しをお願いしたい。		

※さやえんどうに、きぬさやえんどう、スナップエンドウ、砂糖えんどう、オランダさやを含む。

名古屋・東京市場における青果物の4月の見通し

名古屋市中央卸売市場

3月14日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	2018年	32,444	209	213	210	204	愛知 28%
	2019年	35,781	217	226	225	201	北海道 10%
	2020年	35,876	237	239	245	227	茨城 10%
	2021年	38,309	213	218	204	217	鹿児島 10%
	2022年	33,504	251	258	251	245	徳島 7%
	5カ年平均 2023年見通し	35,183 34,800	225 220	— —	— —	— —	— —
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知、北海道などから入荷する。気温上昇により、各品目とも生育は概ね順調で、安定した入荷を見込む。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
だいこん	2018年	1,882	86	84	89	93	千葉 49%
	2019年	2,186	92	96	111	75	愛知 34%
	2020年	1,608	118	129	111	120	鹿児島 13%
	2021年	2,173	78	73	81	88	静岡 2%
	2022年	2,026	102	99	119	96	長崎 1%
	5カ年平均 2023年見通し	1,975 1,900	94 100	95 100	102 100	93 100	— —
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉、愛知を中心に鹿児島からも入荷する。千葉は、安定した入荷を見込む。愛知は中～下旬に増えてくる見込みだが、面積減少傾向のため、引き合いは強い。千葉の入荷量次第で、相場は影響する予想。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年並の見込み。</p>					
にんじん	2018年	1,532	234	231	231	239	徳島 98%
	2019年	2,321	122	109	127	128	愛知 1%
	2020年	2,434	152	177	148	136	長崎 1%
	2021年	2,429	167	168	164	170	
	2022年	2,034	133	126	127	144	
	5カ年平均 2023年見通し	2,150 2,100	157 150	158 150	155 150	158 150	— —
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>ほぼ全量を徳島から入荷する。徳島はL、M中心で、安定した入荷を見込む。今年は昨年と比較し、前半の入荷が多くなる見込み。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

3月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜	2018年	125,191	226	223	229	227	茨城 16%
	2019年	128,921	242	245	253	226	千葉 14%
	2020年	124,597	258	256	259	258	愛知 8%
	2021年	128,101	235	226	236	246	神奈川 8%
	2022年	118,754	272	268	278	270	北海道 5%
	5カ年平均	125,113	246	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2023年見通し	127,000	255	—	—	—		
計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>茨城、千葉など関東産地からの入荷が中心となる。3月は気温上昇と降雨により順調に入荷した。下旬に気温低下や曇雨天で一時的に量を減らしたものの4月は潤沢な入荷が見込まれる。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は高値だった前年をかなり下回る見込み。</p>						
だいこん	2018年	10,494	83	73	86	91	千葉 78%
	2019年	9,982	96	93	112	81	茨城 11%
	2020年	9,487	112	108	107	122	神奈川 7%
	2021年	10,207	69	59	68	84	福岡 2%
	2022年	9,430	96	88	110	90	長崎 1%
	5カ年平均	9,920	91	84	96	93	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2023年見通し	9,600	95	100	95	90		
計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>千葉を中心に茨城などからの入荷となる。千葉は低温や干ばつによる生育遅れは解消して概ね生育順調。神奈川は最終盤で量を大きく減らし、茨城は量を増やしていく。総じて出回りに不足はない見込み。 入荷量、価格ともに前年並となる見込み。</p>						
にんじん	2018年	6,640	214	210	213	220	徳島 80%
	2019年	7,844	121	108	127	128	北海道 6%
	2020年	9,265	158	179	154	145	静岡 4%
	2021年	8,445	163	155	160	173	千葉 3%
	2022年	7,315	127	118	124	136	青森 2%
	5カ年平均	7,902	155	154	154	159	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
2023年見通し	7,500	155	160	150	155		
計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>徳島を中心に北海道などからの入荷となる。主力の徳島は生育に大きな問題はない。干ばつの影響による細物傾向は、降雨により解消し、月前半は安定した入荷を見込むも、後半は減らすか。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>						

名古屋市中央卸売市場

3月14日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうろくさい	2018年	2,045	61	57	68	59	茨城 68%
	2019年	2,233	76	79	88	61	愛知 11%
	2020年	2,646	199	155	192	244	三重 7%
	2021年	2,400	50	50	49	54	熊本 6%
	2022年	2,114	77	106	76	56	兵庫 6%
	5ヵ年平均	2,287	96	92	98	101	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2,100	80	80	80	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>茨城を中心に愛知、三重などから入荷する。やや前進傾向での入荷を見込み、作付面積は減少傾向。漬物、加工業務は依然厳しい環境の予想。 入荷量は前年並、価格は安値だった前年をやや上回る見込み。</p>							
キャベツ	2018年	3,441	91	87	103	89	愛知 93%
	2019年	3,797	85	93	94	73	神奈川 2%
	2020年	3,846	136	106	139	158	滋賀 1%
	2021年	4,569	73	63	79	79	静岡 1%
	2022年	4,327	98	105	116	83	兵庫 1%
	5ヵ年平均	3,996	96	90	106	96	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	4,200	80	80	80	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>愛知を中心に、神奈川などから入荷する。愛知は生育良好で、順調な入荷を見込み、新キャベツを中心に入荷を予想。1～2月期に、雨が少なく生育が遅れ気味だが、今後の雨と気温で回復が見込まれるか。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>							
ほうろ	2018年	264	509	457	542	537	茨城 37%
	2019年	345	449	500	510	364	愛知 28%
	2020年	305	572	539	617	568	岐阜 24%
	2021年	366	465	382	526	534	静岡 4%
	2022年	271	500	458	508	533	群馬 4%
	5ヵ年平均	310	496	465	540	503	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	320	500	500	500	500	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>茨城、愛知を中心に入荷する。茨城は安定した入荷を見込む。岐阜の高冷地物の入荷が昨年より早く、愛知や岐阜の露地物も例年より切り上がりが見込みから、中旬以降はハウス物主体となる予想。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年並の見込み。</p>							

東京都中央卸売市場

3月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうれんそう	2018年	6,630	46	40	49	50	茨城 97%
	2019年	6,399	74	77	84	58	長崎 2%
	2020年	6,485	188	158	187	215	
	2021年	6,485	41	37	41	45	
	2022年	5,995	77	123	73	48	
	5ヵ年平均 2023年見通し	6,399 5,900	85 90	86 95	87 90	84 85	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城からの入荷がほとんどを占める。干ばつにより一部地域では生育遅れがあるもののおおむね生育順調。3月中旬に始まった春はくさいはピークに入る。多少の増減あるも安定した入荷が続くと見込まれる。入荷量は前年並となり、価格は前年を大幅に上回る見込み。</p>					
		<p>数量 (t) と 単価 (円/kg) の推移グラフ。数量は5月～11月まで増加傾向にあり、12月～2月にかけて減少、3月～4月にかけて再び増加している。単価は5月～8月にかけて徐々に上昇し、9月にピークを達成した後、10月～12月にかけて下落、1月～2月にかけて安定し、3月～4月にかけて再び上昇している。</p>					
キャベツ	2018年	18,977	90	95	99	76	神奈川 43%
	2019年	19,148	90	90	103	73	愛知 37%
	2020年	17,728	139	121	137	164	千葉 17%
	2021年	19,917	70	60	73	78	茨城 2%
	2022年	19,358	106	111	121	88	岡山 1%
	5ヵ年平均 2023年見通し	19,026 19,500	98 95	95 100	106 95	95 90	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>神奈川、愛知、千葉からの入荷が中心となる。いずれの産地も生育はおおむね順調。神奈川、千葉はピークに入り量を増やしていく。愛知も順調な入荷が続き、総じて潤沢とみる。価格は需要次第か。入荷量は前年並となり、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>					
		<p>数量 (t) と 単価 (円/kg) の推移グラフ。数量は5月～10月にかけて増加傾向にあり、11月～12月にかけて減少、1月～2月にかけて再び増加している。単価は5月～8月にかけて徐々に上昇し、9月にピークを達成した後、10月～12月にかけて下落、1月～2月にかけて安定し、3月～4月にかけて再び上昇している。</p>					
ほうれん	2018年	1,091	488	420	591	475	茨城 46%
	2019年	1,299	425	495	491	311	群馬 33%
	2020年	1,260	559	545	591	545	埼玉 9%
	2021年	1,421	428	348	532	430	栃木 5%
	2022年	1,322	468	447	484	472	千葉 3%
	5ヵ年平均 2023年見通し	1,279 1,400	472 450	449 440	535 460	445 450	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、群馬など関東産地からの入荷が中心となる。群馬県の一部産地で低温乾燥のため葉の傷みがみられるものの、各産地とも生育はおおむね順調。総じて潤沢な入荷が見込まれる。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
		<p>数量 (t) と 単価 (円/kg) の推移グラフ。数量は5月～11月まで増加傾向にあり、12月～2月にかけて減少、3月～4月にかけて再び増加している。単価は5月～8月にかけて徐々に上昇し、9月にピークを達成した後、10月～12月にかけて下落、1月～2月にかけて安定し、3月～4月にかけて再び上昇している。</p>					

名古屋市中央卸売市場

3月14日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2018年	650	341	309	337	391	大分 29%
	2019年	715	350	316	362	378	鳥取 13%
	2020年	716	400	381	397	423	静岡 10%
	2021年	686	461	409	458	525	愛知 10%
	2022年	755	384	374	375	401	群馬 7%
	5カ年平均 2023年見通し	704 730	387 380	358 360	386 370	423 400	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>大分、鳥取、静岡などから入荷する。各産地、生育は平年並で、順調な入荷を見込む。大分は、新ねぎへの端境期となり、全体的に少なめの傾向。愛知は、越津ねぎがほぼ終了となり、一本ねぎに切り替わる予想。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並の見込み。</p>					
レタ	2018年	1,782	160	153	174	154	茨城 39%
	2019年	1,703	214	233	227	184	兵庫 32%
	2020年	1,669	240	208	244	272	長野 10%
	2021年	1,976	148	130	152	168	愛知 5%
	2022年	2,003	187	204	223	152	群馬 4%
	5カ年平均 2023年見通し	1,827 1,900	188 190	184 200	203 200	184 170	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、兵庫を中心に入荷する。各産地、平年並の入荷を見込み、L、2L中心の入荷予想。長野は低温、干ばつで定植にやや遅れあり。量販店でのサラダ需要は引き続き強く、堅調な販売見込み。入荷量は前年をやや下回り、価格は前年並の見込み。</p>					
きゅうり	2018年	1,797	208	209	207	209	愛知 50%
	2019年	2,016	220	243	220	202	宮崎 14%
	2020年	1,769	275	301	288	245	群馬 13%
	2021年	1,934	260	266	268	249	高知 9%
	2022年	1,610	269	263	255	288	鹿児島 8%
	5カ年平均 2023年見通し	1,825 1,700	245 265	256 270	247 270	237 250	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知を中心に宮崎、群馬などから入荷する。各産地、生育は順調で、安定した入荷を見込む。冬春産地から春産地へ移行し、産地数も増加し、数量も増量する見込み。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年並の見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

3月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	2018年	3,830	330	283	332	388	千葉 33%
	2019年	4,178	306	260	321	345	茨城 21%
	2020年	4,092	339	329	298	394	埼玉 19%
	2021年	3,719	490	448	508	518	栃木 9%
	2022年	4,297	346	337	341	358	群馬 6%
	5カ年平均 2023年見通し	4,023 4,300	360 330	330 280	357 330	398 380	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉、茨城など関東産地からの入荷となる。主力千葉は気温高により生育は前進化している地域があるほか各産地とも生育順調。春ねぎが始まっており、初夏ねぎは中旬からスタート。順調な入荷を見込む。 入荷量は多かった前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
しそ	2018年	7,327	147	145	159	136	茨城 60%
	2019年	6,819	199	215	223	158	兵庫 11%
	2020年	5,755	219	194	227	240	群馬 6%
	2021年	7,022	133	115	142	150	栃木 4%
	2022年	6,870	176	186	203	145	福岡 4%
	5カ年平均 2023年見通し	6,759 6,800	173 170	170 180	189 170	163 160	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城を中心とした関東産地や兵庫などからの入荷となる。低温乾燥による生育遅れは気温高と降雨で解消し、生育はおおむね順調。地域により前進化もみられる。入荷量に不足はない見込み。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
きゅうり	2018年	7,446	217	225	209	217	群馬 24%
	2019年	7,339	229	256	235	197	埼玉 23%
	2020年	6,932	288	324	296	251	宮崎 18%
	2021年	7,417	266	283	271	245	茨城 11%
	2022年	6,726	275	280	268	279	千葉 11%
	5カ年平均 2023年見通し	7,172 6,900	254 270	273 300	255 270	237 240	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、埼玉など関東産地を中心に宮崎などからの入荷となる。各産地とも生育順調。これまで低温のため遅れがみられていたが、気温上昇により数量を増やし、不足感のない出回りを見込む。 入荷量は少なかった前年をわずかに上回り、価格は前年並となる見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

3月14日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
なす	2018年	793	327	345	320	314	熊本 61%
	2019年	851	335	339	333	337	愛知 33%
	2020年	793	376	372	373	383	高知 4%
	2021年	781	352	352	351	354	宮崎 3%
	2022年	814	320	328	322	314	
	5カ年平均	806	342	347	340	340	
	2023年見通し	830	324	330	320	320	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知が中心となる。各産地、平年並で順調な入荷を見込む。熊本はピークとなり、潤沢な入荷を予想。量販店も、果菜類の拡販期に入り、特売やフェア等のイベントも実施されるため、引き合いは強まるか。入荷量、価格はともに前年並の見込み。</p>					
トマト	2018年	1,502	300	307	302	292	熊本 52%
	2019年	1,612	310	360	322	268	愛知 19%
	2020年	1,267	356	406	355	319	三重 16%
	2021年	1,559	291	305	284	288	岐阜 12%
	2022年	1,346	324	342	340	301	
	5カ年平均	1,457	314	342	319	292	
	2023年見通し	1,450	320	320	320	320	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本を中心に愛知、三重などから入荷する。2月以降の天候の回復、気温や日照の上昇から順調な入荷を見込む。下旬から最盛期となり、5月の連休前から入荷のピークに入る見込み。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年並の見込み。</p>					
ミニトマト	2018年	566	593	599	596	582	熊本 65%
	2019年	623	625	676	639	568	愛知 30%
	2020年	542	646	721	654	580	和歌山 3%
	2021年	754	544	559	526	542	宮崎 2%
	2022年	729	593	622	604	565	
	5カ年平均	643	597	630	600	566	
	2023年見通し	730	568	600	550	550	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>熊本、愛知を中心に入荷する。1月下旬から3月中旬までは、少なめでの推移したが、4月上旬までは前年より多い入荷量を見込む。上旬から単価安となり、売込も活発になるため、月を通して安定した需要があるか。入荷量は前年並、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

3月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
なた	2018年	3, 6 2 3	3 7 0	356	368	388	高知 56%
	2019年	3, 6 4 9	4 0 0	408	413	379	福岡 18%
	2020年	3, 3 7 3	4 4 3	440	441	448	熊本 11%
	2021年	3, 6 3 6	4 1 3	408	424	408	群馬 5%
	2022年	3, 9 9 3	3 4 3	350	331	349	栃木 3%
	5カ年平均 2023年見通し	3, 6 5 5 3, 7 0 0	3 9 2 3 5 0	391 360	394 350	393 340	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
す	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	高知を中心に福岡などの西南暖地のほか、群馬などからの入荷となる。各産地とも生育はおおむね順調。3月の曇雨天による生育遅れは回復を見込む。着花・着果は良好で、潤沢な入荷が見込まれる。 入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。						
トマト	2018年	7, 4 6 4	3 3 3	338	331	329	熊本 29%
	2019年	7, 2 8 8	3 6 0	404	376	308	栃木 27%
	2020年	6, 1 3 2	4 1 2	454	407	377	愛知 12%
	2021年	7, 3 4 6	3 3 5	348	323	334	茨城 6%
	2022年	6, 8 0 8	3 7 0	381	384	351	千葉 5%
	5カ年平均 2023年見通し	7, 0 0 8 7, 0 0 0	3 6 0 3 6 0	382 420	362 350	338 310	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
ト	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	熊本、栃木、愛知からの入荷が中心となる。各産地とも生育はおおむね順調。小玉傾向からの肥大改善を見込む産地はある一方、小玉傾向が続くとも見込む産地もある。潤沢な入荷により価格は軟化する。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。						
ミニトマト	2018年	2, 1 2 2	5 4 4	546	541	545	熊本 43%
	2019年	2, 2 7 9	5 9 1	660	597	522	愛知 18%
	2020年	2, 0 8 7	6 0 4	661	610	546	千葉 9%
	2021年	2, 3 6 5	5 1 4	528	504	509	宮崎 9%
	2022年	2, 2 7 8	5 7 9	615	592	544	静岡 7%
	5カ年平均 2023年見通し	2, 2 2 6 2, 3 0 0	5 6 6 5 9 0	601 660	568 580	533 530	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
ト	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	熊本、愛知、千葉からの入荷が中心となる。各産地とも生育はおおむね順調。気温上昇、日射量の増加に伴い入荷量は増加傾向となり、下旬にピークとなる見込み。潤沢な入荷で、相場は下げ基調となる。入荷量、価格ともに前年並となる見込み。						

名古屋市中央卸売市場

3月14日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピールマン	2018年	695	312	351	302	333	鹿児島 45%
	2019年	693	426	511	431	364	宮崎 26%
	2020年	612	631	604	627	613	茨城 17%
	2021年	712	443	492	430	434	高知 11%
	2022年	636	429	436	435	439	
	5カ年平均	670	444	476	441	432	
	2023年見通し	640	460	490	450	440	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
鹿児島、宮崎、茨城を中心に入荷する。気温上昇とともに、各産地増量傾向になる予想で、天候次第だが、順調な入荷を予想。肥大も進み大玉（バラ）の入荷が増える見込み。入荷量は前年並、価格はかなり上回る見込み。							
ばれい	2018年	2,724	132	122	126	152	鹿児島 84%
	2019年	3,149	143	133	147	146	北海道 12%
	2020年	3,439	187	215	173	181	長崎 4%
	2021年	2,890	309	289	316	313	
	2022年	2,736	257	235	274	255	
	5カ年平均	2,988	204	199	205	207	
	2023年見通し	2,700	200	200	200	200	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
鹿児島を中心に入荷する。鹿児島は、離島の4月出荷の産地が多い予想だが、不安定となる見込み。北海道は、計画出荷がほぼ終了。長崎は生育が遅れ気味で、5月下旬の販売を見込む。入荷量は前年並、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。							
たまねぎ	2018年	6,085	91	103	96	82	北海道 57%
	2019年	6,387	106	116	102	104	愛知 36%
	2020年	7,506	63	70	64	59	静岡 2%
	2021年	7,771	72	82	69	68	中国 2%
	2022年	5,071	198	244	154	219	熊本 1%
	5カ年平均	6,564	100	115	92	99	
	2023年見通し	6,200	110	110	110	110	前年及び本年の入荷量・価格の動き
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道、愛知を中心に入荷する。北海道は一部出荷残し、契約出荷でL大中心の予想。愛知は、知多、碧南のネット出荷も始まり、本格的に増量する。年内からの低温、干ばつで小玉傾向だが、今後の天候で玉肥大は進むか。入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。							

東京都中央卸売市場

3月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	2018年	2, 368	387	414	373	374	茨城 52%
	2019年	2, 426	485	562	480	425	宮崎 26%
	2020年	2, 399	648	650	650	646	高知 13%
	2021年	2, 530	480	513	470	457	鹿児島 8%
	2022年	2, 519	487	483	490	489	沖縄 1%
	5カ年平均	2, 448	497	524	493	478	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	2, 500	510	550	500	480	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>茨城を中心に、宮崎などの西南暖地からの入荷となる。主力茨城は3月の曇雨天による生育遅れがみられるも気温上昇に伴い回復し、入荷量は増加していく。西南暖地は順調な出方で、全体量は十分な見込み。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや上回る見込み。</p>							
ばれいしょ	2018年	8, 333	115	110	112	125	鹿児島 64%
	2019年	8, 884	132	126	133	140	北海道 27%
	2020年	10, 013	158	161	150	163	長崎 9%
	2021年	7, 491	301	294	299	309	
	2022年	6, 855	255	236	269	257	
	5カ年平均	8, 315	186	180	185	192	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	7, 000	160	190	160	130	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>鹿児島を中心に、終盤の北海道のほか、長崎からの入荷となる。北海道はほぼ終了し残量は少ない。鹿児島は1月の寒波等により生育は遅れており、入荷も遅れる。総じて出回りに不足はない見込み。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>							
たまねぎ	2018年	11, 905	102	110	99	99	北海道 43%
	2019年	13, 189	122	124	126	114	佐賀 41%
	2020年	14, 258	59	70	64	48	中国 4%
	2021年	13, 656	79	82	74	81	熊本 3%
	2022年	9, 173	274	245	243	334	静岡 3%
	5カ年平均	12, 436	117	118	112	121	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	12, 000	120	140	120	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道が終盤になり佐賀からの入荷が本格化していく。貯蔵の北海道は安定した入荷を見込む。生育遅れがみられる佐賀は、遅れは解消しつつあり、量を増やしていく見込み。総じて潤沢な出回りを見込む。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高騰した前年を大幅に下回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

3月17日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2018年	6,083	440	443	431	430	フィリピン 23%
	2019年	6,997	436	419	432	432	熊本 16%
	2020年	5,854	468	455	469	445	青森 16%
	2021年	7,243	415	433	402	420	愛知 10%
	2022年	6,926	459	464	473	454	ニュージーランド 6%
	5カ年平均	6,621	443	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	7,300	410	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	いちご、りんごなどが主な品目となる。りんごは、4月中下旬からCA品に切り替わるが、販売単価は伸び悩む予想。すいかは、無加温が多く、肥大が悪いため、初期は小玉傾向の予想。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。						
いちご	2018年	761	1,102	1,148	1,079	1,090	愛知 67%
	2019年	924	1,045	1,065	1,054	1,053	熊本 20%
	2020年	706	1,171	1,199	1,188	1,139	鹿児島 4%
	2021年	824	1,042	1,049	1,012	1,067	佐賀 3%
	2022年	735	1,091	1,118	1,094	1,065	福岡 2%
	5カ年平均	790	1,086	1,111	1,081	1,081	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	750	1,050	1,100	1,050	1,050	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知を中心に熊本などからも入荷する。高温の影響により前進傾向で、天候による品質低下のおそれあり。上～中旬で、3番果のピークの見込み。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をやや下回る見込み。						
その他メロン (アールスメロンを除く)	2018年	207	459	377	463	496	熊本 76%
	2019年	236	493	526	482	493	鹿児島 11%
	2020年	201	530	612	577	503	メキシコ 4%
	2021年	160	521	537	551	556	その他 4%
	2022年	177	603	644	629	590	その他中南米 1%
	5カ年平均	196	518	535	535	523	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	2023年見通し	160	600	650	620	580	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	熊本、鹿児島などから入荷する。九州は作付面積が減少傾向。寒波の影響で遅れていた分が、気温上昇により追いついたが、小玉傾向となる見込み。 入荷量はかなり下回り、価格は高値だった前年並の見込み。						

東京都中央卸売市場

3月31日 現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	2018年	23,963	490	518	480	469	青森 19%
	2019年	26,863	480	490	474	477	熊本 17%
	2020年	23,649	502	512	503	490	愛媛 10%
	2021年	28,060	467	494	452	450	栃木 9%
	2022年	23,953	547	547	554	541	フィリピン 7%
	5ヵ年平均	25,298	496	—	—	—	
	2023年見通し	25,000	500	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	いちご、かんきつ類、りんごを中心に、ハウスみかんなど施設果樹も入荷する。ハウスみかんの入荷が始まるも、生産者減で入荷量を減らすか。りんご類の在庫は潤沢で入荷量は平年並を見込む。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。						
いちご	2018年	4,291	1,095	1,152	1,050	1,046	栃木 47%
	2019年	4,912	1,096	1,103	1,101	1,079	福岡 14%
	2020年	4,104	1,156	1,172	1,140	1,151	茨城 11%
	2021年	5,055	1,016	1,070	969	984	静岡 8%
	2022年	4,655	1,140	1,180	1,148	1,096	佐賀 7%
	5ヵ年平均	4,603	1,098	1,133	1,079	1,068	
	2023年見通し	4,550	1,090	1,150	1,070	1,050	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	栃木を中心に福岡、茨城などの各産地から入荷する。主力となる栃木は安定した入荷となる見込み。各産地ともに4番果へ切替わりガラガラとした入荷となるも、気温の上昇により小玉傾向となるか。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をやや下回る見込み。						
その他 メロン (アールスメロンを除く)	2018年	608	542	632	561	512	茨城 63%
	2019年	735	537	629	568	498	熊本 55%
	2020年	648	530	650	559	497	ホンジュラス 4%
	2021年	939	587	706	606	550	メキシコ 3%
	2022年	701	667	831	706	630	宮崎 2%
	5ヵ年平均	726	575	692	602	539	
	2023年見通し	700	680	800	690	550	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	茨城からオトメメロン、熊本からアンデス、クインシーが入荷する。4月上旬の入荷量は生育の遅れにより少なく、4月中下旬から入荷のピークを迎え、2L主体となる見込み。 入荷量、価格ともに前年並の見込み。						

切花・鉢花の4月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 3月31日現在）

単位：千本、円/本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	2018年	1, 7 8 1	3 5	
		2019年	1, 6 7 2	3 8	
		2020年	1, 1 7 9	2 7	
		2021年	1, 2 6 1	3 3	
		2022年	1, 0 6 6	5 9	
	5カ年平均	1, 3 9 2	3 7		
2023年見通し	1, 1 0 0	5 5			
概要	愛知中心の入荷。上旬は入荷量少なめ、中旬頃から年末の返し始まり、入荷量も伸びてくる。需要も少ない時期で動きは鈍そう。下旬からは母の日参りの需要に期待。				
小 ぎ	実績	2018年	1, 1 5 3	2 6	
		2019年	9 8 0	3 3	
		2020年	8 2 4	2 1	
		2021年	9 2 4	2 3	
		2022年	8 5 6	3 4	
	5カ年平均	9 4 7	2 7		
2023年見通し	8 0 0	3 0			
概要	沖縄中心の入荷。上旬は少ない見通し。中旬以降は年末の返しも始まり、少しずつ安定入荷してくる見込み。下旬からの母の日参りに期待される。				
カー ネー シ ョ ン	実績	2018年	1, 5 4 7	2 7	
		2019年	1, 2 4 6	4 3	
		2020年	9 9 6	3 2	
		2021年	1, 1 6 6	5 4	
		2022年	1, 2 7 2	6 2	
	5カ年平均	1, 2 4 5	4 3		
2023年見通し	1, 2 5 0	6 0			
概要	愛知、和歌山中心の入荷。厳寒から一気に暖かくなり、3月の出回りが増えたため、4月の国内産地は少し谷になる見込み。回復してもそれほどの山はなく、ダラダラ出荷になる見込み。輸入物は昨年並の入荷予定。				
か す み	実績	2018年	2 3 8	5 2	
		2019年	1 8 2	7 8	
		2020年	1 6 1	5 5	
		2021年	2 0 2	6 9	
		2022年	2 1 5	8 5	
	5カ年平均	2 0 0	6 8		
2023年見通し	2 0 0	8 0			
概要	和歌山、高知、熊本からの入荷となる。3月の日中の気温高から前進傾向となっており、出荷の谷になる産地が多くなりそうで、下旬から増えていく見込み。				

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆ り	実績	2018年	301	153	
		2019年	263	184	
		2020年	231	123	
		2021年	258	160	
		2022年	230	173	
	5カ年平均		257	159	
	2023年見通し		230	170	
概要	<p>オリエンタルユリは高知、宮崎、埼玉からの入荷。中旬は年末の返しとなる分が出荷され、数量は多くなる見込み。鉄砲は生産が減少しているため、相場の大きな崩れはない見込み。</p>				
洋 ら ん	実績	2018年	356	78	
		2019年	410	73	
		2020年	206	88	
		2021年	272	97	
		2022年	257	141	
	5カ年平均		300	92	
	2023年見通し		260	120	
概要	<p>愛知、徳島、静岡、鹿児島などの国産に加え、輸入品が入荷する。デンファレは全体的に入荷減。特にアンナは顕著。オンシジュームは平年並の入荷で上位等級の発生率が上がる。カトレアは気温の上昇とともに入荷増え、中旬頃にピーク迎える。コチョウランは輸入品の流通制限が緩和となり、入荷増の見込。</p>				
ば ら	実績	2018年	849	48	
		2019年	727	65	
		2020年	505	56	
		2021年	630	80	
		2022年	740	82	
	5カ年平均		690	66	
	2023年見通し		700	80	
概要	<p>愛知、岐阜、三重中心に入荷。輸入の入荷が少なくなり、高冷地産の出荷始まる。国内産の入荷は増えてくるが需要は減り、厳しい販売となる見込み。</p>				
枝 も の	実績	2018年	1,512	48	
		2019年	1,348	56	
		2020年	835	49	
		2021年	1,215	59	
		2022年	1,262	65	
	5カ年平均		1,234	55	
	2023年見通し		1,250	60	
概要	<p>初夏の花木の入荷が順調に始まる。ドーダン、スノーボール、大葉ウリ、ヤマブキ、姫リョウブ、銀芽などは例年よりも早めの出荷になる見込み。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
カラ	実績	2018年	33,365	438	
		2019年	30,014	459	
		2020年	36,659	430	
		2021年	22,158	704	
		2022年	23,520	755	
	5ヵ年平均		29,143	532	
	2023年見通し		23,500	753	
概要	<p>入荷量は前年並か。中旬より徐々に入荷が増え始め、連休前の需要が高まる4月下旬より急増する。 例年同様5号鉢が中心となるが、近年4号鉢以下の小鉢の需要も高くなっている。 今期も大輪の黄色、発色の良いピンクが引き合いが強くなると予想。 前年4月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位長野（45.2%）、2位埼玉（21.9%）、3位新潟（9.9%）となっている。</p>				
ファレスノ	実績	2018年	48,427	2,564	
		2019年	43,014	3,031	
		2020年	46,450	1,932	
		2021年	43,621	3,026	
		2022年	41,940	2,952	
	5ヵ年平均		44,690	2,686	
	2023年見通し		41,800	2,955	
概要	<p>入荷量は前年より若干減少か。新型コロナウイルスによる輸入制限も緩和され、苗の供給も安定している。しかし、円安の影響や航空運賃の上昇によりコストがかなりかかっている。また、エアコンで温度管理をしていることにより、電気代がかなりかさんでいる。大輪の生産量は安定しているが、近年単価の伸び悩みが続くミディーは減る見込み。 前年4月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（57.0%）、2位静岡（9.0%）、3位熊本（7.8%）となっている。</p>				
バラ及びミニバラ	実績	2018年	75,413	190	
		2019年	64,699	217	
		2020年	76,851	205	
		2021年	83,332	259	
		2022年	83,039	246	
	5ヵ年平均		76,667	225	
	2023年見通し		83,000	241	
概要	<p>入荷量は前年より減少か。各種生産コストの上昇で生産調整があるが、4月上旬からは小鉢中心に順調に入荷する見込み。相場は中値安定と予想されるが、入荷増の前半は需要期前の為に安値が予想される。 前年4月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（53.9%）、2位岐阜（32.6%）、3位埼玉（5.3%）となっている。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ハイ ド ラ ン ジ ア	実 績	2018年	1 9 1, 1 2 8	7 7 1	
		2019年	1 6 1, 3 3 4	8 2 3	
		2020年	2 2 3, 3 5 9	8 5 3	
		2021年	2 5 8, 7 2 8	9 3 9	
		2022年	2 6 0, 0 6 7	9 0 8	
	5カ年平均	2 1 8, 9 2 3	8 6 8		
	2023年見通し	2 6 0, 0 0 0	9 0 8		
	概要	<p>入荷量は前年より減少か。母の日が遅い分、出荷ピークが5月に集中する見込みである。5号サイズが入荷の中心だが、4. 5号や4号鉢での増産傾向もあり出荷は増える見込みである。</p> <p>前年4月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知 (61.1%)、2位群馬 (9.2%)、3位埼玉 (7.8%) となっている。</p>			
ス パ テ イ フ イ ラ ム	実 績	2018年	2 4, 6 0 2	3 5 6	
		2019年	1 9, 9 7 2	3 7 0	
		2020年	2 0, 6 6 1	3 6 5	
		2021年	1 7, 5 5 2	4 4 7	
		2022年	1 7, 0 0 7	4 9 1	
	5カ年平均	1 9, 9 5 9	4 0 0		
	2023年見通し	1 7, 0 0 0	4 8 8		
	概要	<p>入荷量は前年より減少か。サイズは4号中心の入荷がメインとなり、出荷は4月中旬以降から5月中旬までの入荷がメインになる見込み。寒波や原油価格の高騰も相まって出荷時期が後ろに倒れ込み、4月の入荷量は前年より減少が要因か。コロナの巣籠需要も落ち着きを見せているが、入荷量の減少も相まって注文の比率が上がり平均単価は昨年並と予想する。</p> <p>前年4月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位三重 (50.3%)、2位静岡 (23.7%)、3位愛知 (14.8%) となっている。</p>			
カ ー ネ ー シ ョ ン	実 績	2018年	1 1 7, 7 2 3	3 4 4	
		2019年	8 9, 2 4 9	3 5 2	
		2020年	1 3 3, 2 2 1	3 4 9	
		2021年	1 4 4, 0 8 0	4 3 7	
		2022年	1 6 8, 5 3 8	4 9 4	
	5カ年平均	1 3 0, 5 6 2	4 0 5		
	2023年見通し	1 6 8, 0 0 0	4 9 4		
	概要	<p>入荷量は前年並か。予定では委託品少な目で推移する予定の為、競売引き合いが強いと予想される。3号～3. 5号の作付減が予想され、引き合いが強くなると思われる。</p> <p>前年4月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知 (53.8%)、2位群馬 (18.1%)、3位埼玉 (7.0%) となっている。</p>			



いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.598
2023年4月発行
農業水産局農政部食育消費流通課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6434